

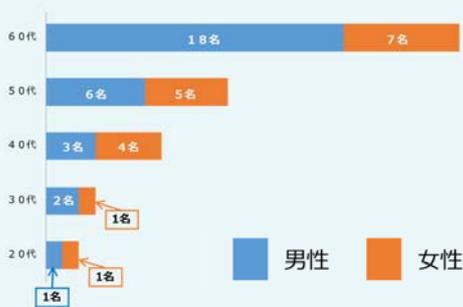
国有林モニターの取組について

企画課

北海道森林管理局では、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理・経営を行うために、国民の皆さまの意見・要望を活かすこと、また、国有林が森林環境の保全など様々な役割を果たしていくために、皆さまの理解と支援を得ることを目的として、一般の方から国有林モニターを公募しています。

モニターの方には、任期の間に、国有林についての情報提供やイベントの案内等により、国有林野事業についての理解を深めていただくとともに、アンケートへの協力やモニター会議への出席などをお願いしています。

今期は、令和2年4月から2年間の任期で、全国各地在住の、様々な職業の48名の方にモニターを委嘱しております。モニターの方々の性別・年齢構成は図1のとおりです。



平均年齢は56.6歳、20代から60代までと幅

図1 国有林モニターの年齢構成



送付した資料：モニターの役割

広く、立場も経験も異なる皆様から貴重な意見をいただければと考えています。

アンケートの結果から

今期最初の取り組みと

して、5月に国有林モニターの皆様に対して国有林モニターの役割や活動などについて理解を深めていただくため、資料の

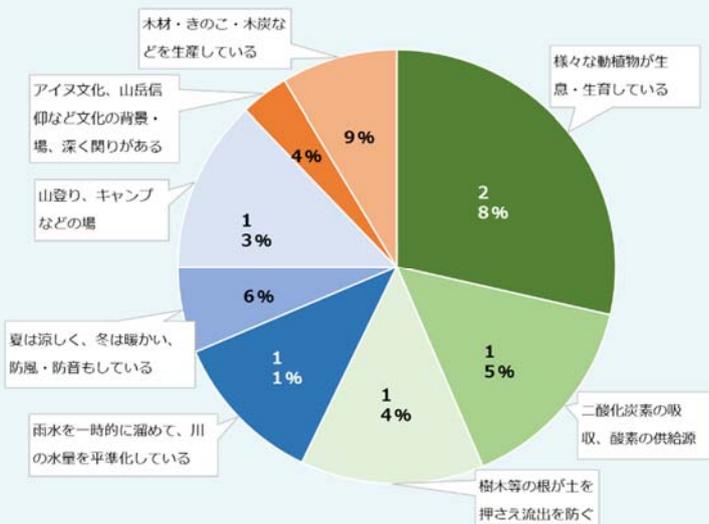


図2 森林（北海道）のイメージ

送付と併せて第1回アンケートを実施しました。アンケートでは、「森林のイメージ」や「聞いたことのある林業用語」等について回答をいただきました。

図2は、モニターの皆

さまが北海道の森林に対して抱くイメージを図にしたものです。一つのイメージに集中することなく、森林の有する多様な機能を象徴するように、色々なイメージについて回答をいただきました。

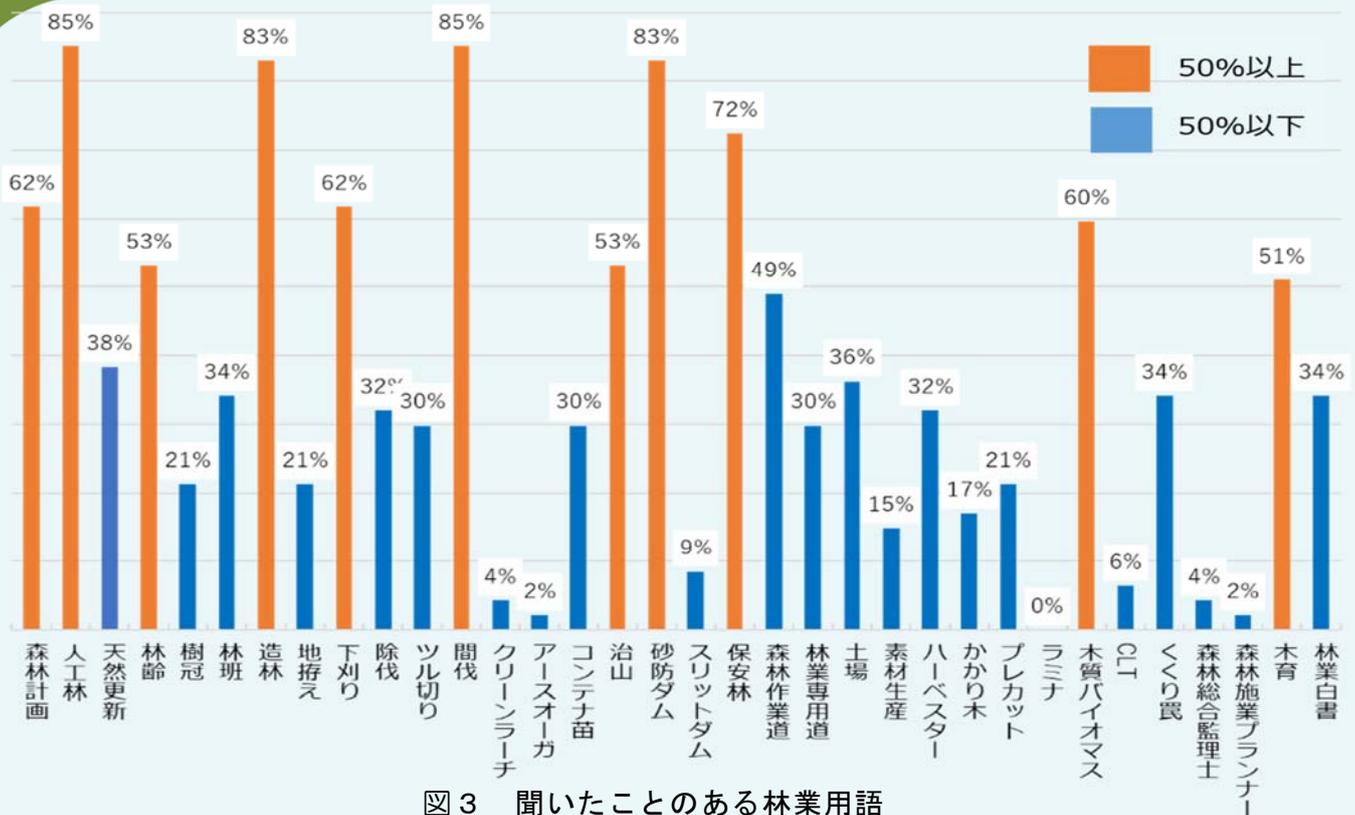


図3 聞いたことのある林業用語

どのイメージも森林の有する重要な機能であり、今後のモニターの活動を通じて更に理解を深めていただければと考えております。

図3は、モニターの皆さまが、聞いたことのあるという林業用語について図にしたものです。

この質問は、一般の方々に、どれくらい林業に関する用語が浸透しているかはかるために実施しました。

「砂防ダム」、「間伐」、「造林」、「人工林」は知名度が80%を超える一方で、「ラミナ」、「森林施業プランナー」などの専門用語はほとんど認知されていませんでした。

この結果を受け、本誌を含め国民の皆さまへのPRを更に進めなければならぬと認識を新たにしました。2年間の間

に、どの用語も理解が進むように努めていく考えです。

その他に、関心のある事項について自由に記入してもらったところ、森林の機能に関する事、森林づくりに関する事、広報活動に関する事、技術等に関する事、木材利用に関する事などが多く、モニターの方々が森林・林業の様々な面について関心が高いことがうかがわれました。

今後、計画している国有林モニター会議では、森林・林業・木材産業に関する課題、北海道森林管理局の役割、それらに向けた各種の取組などを紹介させていただくこととしていく所です。

例年、7月に札幌市でモニター会議を開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会議の開

催を延期しております。今後の状況を見ながら開催を検討してまいります。

モニターの皆様が発言・現地見学会に安心して参加していただける日が早くやってくることを祈念しつつ、今後も広報誌等による情報発信を積極的に、北海道内や国内の森林・林業の置かれている状況や課題等、モニターの皆様と情報を共有していきたいと考えています。

国有林モニターの情報は、北海道森林管理局のホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/apply/publicsale/tyousei/monitor.html>